

宇和島の花柳界

千早振神代のむかし、天の岩戸のお神樂以來女なくては世のあけぬ豊葦原瑞穂國の宇和島である花柳界の盛衰がその土地の消長をシンボライする唯一のパロメーターであるのも亦止むを得ないであらう。否むしろ當然の事實であるかも知れない、これを海外殖民地の發展経路について觀察するも、その殖民地の發展の先驅を承はる者は何んと云つても娘子軍の一隊であり、紅裙連の一團である。彼の南洋發展の天草乙女などはあまりに有名であり過ぎる、がさて議論は抜きにして吾が宇和島市の發展進歩の道程にもそうした傾向は甚だ顯著で、市の商取引産業交通の發展に伴れて花柳界も併行的に發展を遂げて來た。現在宇和島市には北陽檢番と築地檢番の二つが對立して盛んに線香の賣り上げを競ふてゐる、北陽花街は現在料理屋三十三軒、置屋二十二軒、藝妓六十餘名、築地花街は、昭和六年四月、北陽花街から分離して、宇和島灣頭の築地に一廓を設けたもので、宇和島灣の碧海を望んだ景勝の地にあり、其の建築、その設備、その内容共に關西一の稱があり、置屋十八軒、料理屋二十六軒、それに七八十名の藝妓が互に装ひをこらせて艶麗極りなき微笑をもつて客の送迎に努めてゐる。

料亭 あづま

築地花街の草分けであり、宇和島否南豫切つての大料亭あづまは藤原茂馬氏の経営である。未だ築地花街が出来ない以前、この料亭あづまは北陽花街にあつて矢張り宇和島花街の一二を争ふ大料亭であつたが昭和六年四月築地花街の完成と同時に率先、新開地の築地に移轉、今日に至つた。草創當時の築地花街は甚だ振はず、其の経営は理想のみで實を伴はず、幾度となく花街の経営難を來たし、遂には築地花街の解散を叫ばれたこともあつたが、その都度藤原氏は同業者を督勵して自ら第一線に立つて難問題の折衝に當り解決の勞に苦心慘愴を極めたものであつたが、氏の努力は報はれて關西屈指の築地花街の今日の繁榮を見るに至つたのである。

藤原氏は温厚篤實、料亭の主人として稀れに見る情誼の深い徳望のある人で、その主人公の性格の顯はれである、料亭あづまの今日の繁榮も、そこに必然的の因縁が結ばれてゐるので、徳は孤ならずの古語が今更の如くに生きて來るのである。

あづまの室内設備は百疊敷の大廣間の建物の外に五棟に分れ、各棟、各室の別館式で、宴會其他社交的料亭の瘁をあつめてゐる。夏は遊覽船の設備もあり、室内は扇風機の必要を認めず、遊び心

地のよいこと、名實共に南豫第一の料亭である。

料亭 老松

築地花街の二大料亭として、あづまと老松とは、南豫地方に於ける花街の双壁である。吉本格一氏の経営で、以前は古くから北陽花街に吉本席として置屋を開業して同業の取締役を勤めてゐたが昭和六年四月、築地花街の完成と共にこの地に移轉し、料亭と置屋を兼業してゐる、料亭は客室七間と、宴會場としての大廣間があり、室内の設備と、調度に瘁を凝らし、一流料亭の體面おのづから備はつてゐる。置屋には百々代、くれ葉、友千代、秀勇、蔦次、はじめの築地花街一流の美形が控へて居り、遊覽船の設備もあつて、夏の納涼には絶好である。宴會も出来れば低酌微吟、美妓を擁して浩然の氣を養ふによく、その客筋は一流の實業家を網羅して料亭老松の名は築地花街の一名物として知られてゐる。

料亭 春の家

昭和六年四月、築地花街の分離によつて一時その成行きに不安を持たれた北陽花街は、その後年

を經るに従つてその不安は一掃され、今は以前の面形そのままの川端花街の花やかな氣分に立ち返つて、宇和島兩花街の對立的面目を發揮するに至つた。

料亭春の家は北陽花街の一流であるのみならず南豫花柳界屈指の料亭として知られてゐる。大正六年村上助太郎氏の開業であるが、その營業は逐年素晴らしい繁榮振りを示し、一昨年宏壯な新築成つて一躍北陽花街料亭の王座を占めて信用と地盤を築き上げてゐる、客筋は地方政界の有力者或は實業界の活動家を網羅してゐるが、千客萬來どこにそうした人氣があるのか一寸判断が付き兼ねるが、女將さんが頗る如才なく、客の待遇に餘念がなく、氣安い料亭としてお客さんに喜ばれてゐる。現在では置屋も兼業して藝妓も二三人抱へられて居り、料理は腕利きのコックさんが自慢の庖丁の切れ味を見せて、珍味佳肴あり、乙な座敷の構へに至つては一度遊んだものは二度三度と續けて行かねばならないのは此處春の家の特色であらう。

置屋 旭 席

築地花街が出来上ると同時に、旭村近永の花柳界を引上げて、こゝに移轉開業して今日に至つたもので、關西第一の稱ある築地花街の面目を保つ上には善き藝妓の仕込みが第一でなければならぬ

と云ふので、抱へ藝妓の選擇には非常に苦心を要してゐる。

現在の抱へ藝妓は、ゑみ、時松、登美、正勝、一龍、さつき、お多福、池鶴子、笑千代、若玉などであるが、此の大部分の姐さん達は關西第一を誇る高知市の料亭兼置屋得月に仕込まれた藝達者揃ひで、何れも築地花街の花形として、その容色に於ても、客の待遇に於ても斷然優れた趣を備へてゐる。主人公の藥師神啓一氏は非常な苦勞人で、抱へ藝妓に對する差別待遇を絶対に廢して一家團樂、家族同様の生活にひたすら藝道の精進に努めてゐる。

皮膚科、花柳病科、
泌尿科

上田 醫院

廣 小 路
電話二九六番

健康に

なる

お酒

力草

長 瀧 吟 釀

宇和島のカフェー

都會人の近代的生活を濃厚に色どるものはカフェーのアトモスフィアの中に見出される。今やカフェーは近代都會人の缺ぐべからざる生活の一要素を構成してゐると云ふべきだ、宗教家に言はすれば頽廢した人間生活の一場面として退けるであらうが、酒は涙か溜め息か……と云ふ調子で都會の憂鬱を慰める唯一の隠れ場所としてカフェーのシャンデリヤはあまりにもなつかしきものゝうちに敷へられてゐる。しかもそこには近代色の豊かなサービスが待ち構へてゐると云ふのだから若人の胸に堪らない印象を刻みつけられるのも無理がなからう。次に示すのは現在宇和島市に於ける主なるカフェーである。

ミカド(追手通) トキワ(丸之内) ウロコ(丸之内) 志喜嶋(丸之内) ハート(鶴島町)
 一平(朝日町) みなと(鶴島町) ポントン(西川端) 大吉食堂(丸之内)

カフェー トキワ

宇和島市丸之内カフェー街に最も光彩を放つカフェートキワは大正十三年の創業で、木村喜平氏

の経営である。木村氏は大阪商船會社、郵船會社、社外船等のアメリカ航路の司厨長を十餘年間勤め、諸外國の食事に精通した人で、その料理の腕前も優れて居り宇和島の一流カフェーのうちでも筆頭に數へられる繁榮振りである、

その室内設備は家族席と普通席とあり、洋室三室、日本室七室、ホール三室、近代カフェーの粹をあつめ、艶麗にしてしかも豊満な曲線美を顯はした女給が二十名、それ〴〵得意のサービスをもつて客に接し、都會の憂鬱を慰すことに努めてゐる。

料理は和、洋食は元より支那料理は福洲生れの本場から來た腕利きの料理人が居り、料理場にはそれ〴〵特長をもつた十名の料理人がいつも多忙を極めてゐる。

トキワ 食堂

袋町濱通りの目貫の場所に本年七月新築されたトキワ食堂はカフェートキワの姉妹食堂としてトキワの主人公の経営である、宇和島市に初めて生れたデザート式純食堂であつて、日本料理は晝食二十錢より一圓まで、西洋料理は晝食三十錢より一圓五十錢まで、支那料理は御飯付三十錢より二圓までの定食であるが、此の食堂に働く女ボーイは十五六才の純真な少女が十名、ノーチップを採

用してゐるので色気なしの、極めて明朗なサービスが此の食堂の誇りとなつてゐる。殊に此の食堂の生命は従来ありふれた喫茶店を更に實用化したもので、婦人並に家族同伴の客を歓迎するので最も入り易い感じがする。

ウロコ食堂

宇和島市丸之内カフェー街、ウロコ食堂は昭和二年の創業であつて水口榮氏が経営してゐる。水口氏は東京ステーションホテル、上野精養軒、大阪堂島ホテル等日本一流の西洋料理店に多年コック生活をした人で、その料理は日本の腕前を持つてゐるので、この食堂の板場に働くものは主人公の眼識に叶つた料理人ばかりで、西洋料理、日本料理、支那料理等何れも得意の腕利きが働いてゐる。最近支那の本場から來た馮啓明は廣東料理の名人として知られて居り、各料理共定食に重きを置き、園遊會の會食、仕出し等も配達される、夏は生ビール、冷凍酒等を備へ、客室は家族席、普通席と分れ洋室六室、和室三室、ホール一室、その設備は大都會の一流カフェーと比べて遜色がない、特にサービスは、東京其他の大都會で鍛へ上げた、女給が十三名、艶麗な頬笑みをもつて迎へ、そのサービス振りは満點である。本年夏、畏くも 澄宮殿下が宇和島市に行啓遊された時、水

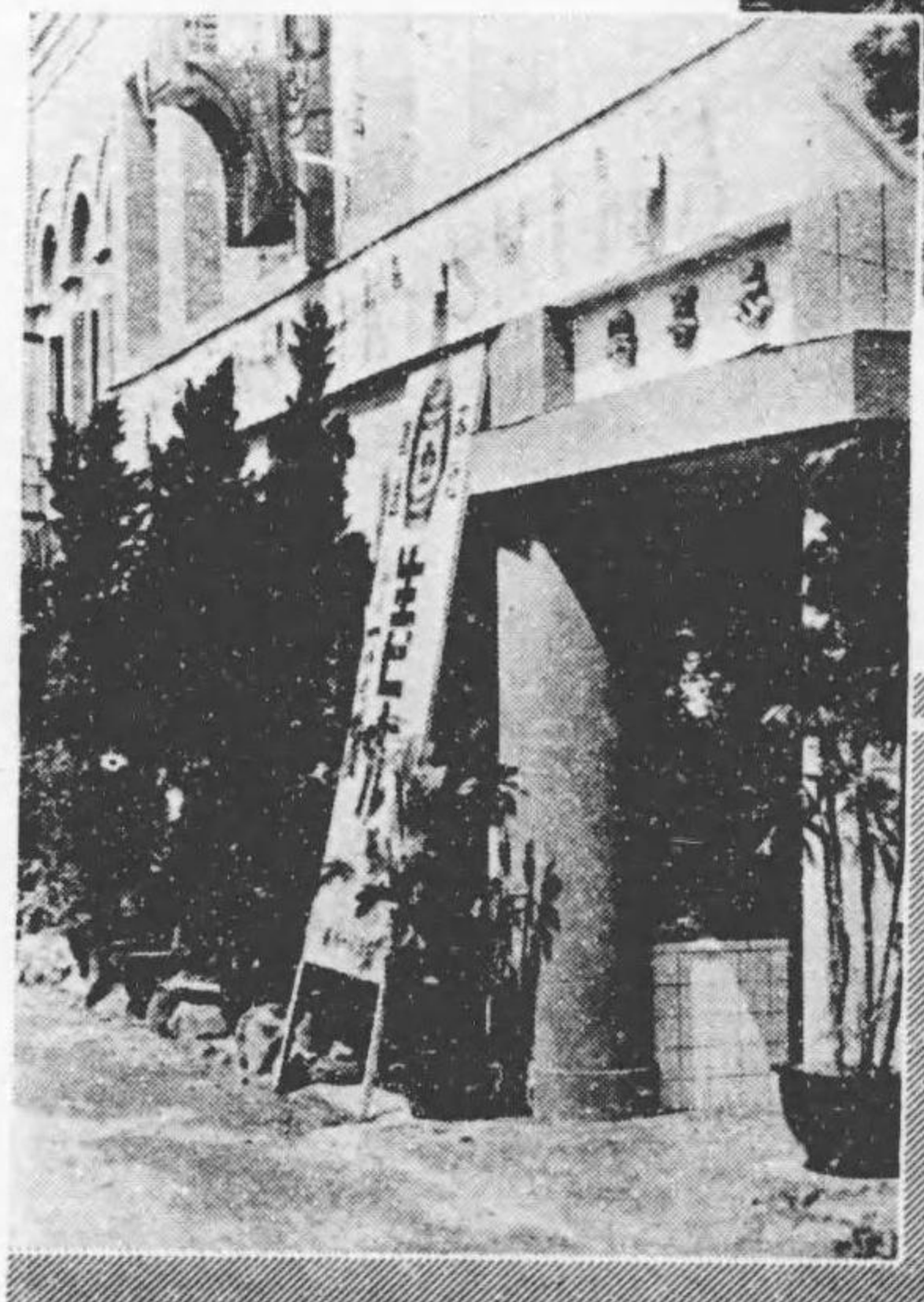
ウロコ食堂



宇和島市丸之内「ウロコ食堂」



築地花街旭席、向ッテ右 久み、左 時松



レストラン・バー 社交場 志喜嶋

口氏は撰ばれて、殿下に清涼飲料水を献上するの光榮に浴した。

食堂と酒場^バ 志喜嶋

市内丸之内カフェー街にある、食堂と酒場、志喜嶋は大正十二年の創業で初めはカフェー敷島と稱したが、大正十五年現在のカフェー街に進出して、丸之内會館と改め更に今の志喜嶋に改めて今日に至つたのである。主人公の渡邊柳太郎氏は大正十二年から宇和島市の消防組に關係して、小頭から、第四部長に進み、多年消防組に盡瘁した爲め、愛媛縣警察部長、宇和島警察署長から數回表彰狀並に感謝狀を受けたが、更に氏は宇和島在郷軍人第一分會評議員として多年拮据盡瘁其功尠なからずと云ふので昭和十年三月帝國在郷軍人會長から表彰された名譽ある人物である。

カフェー
ミナト
鶴島町西通

食堂とバーの營業は女將が専ら引廻してゐるが、女將は頗る愛嬌があつて、自ら氣輕に客のサービスに當り、七八名の女給も亦女將と共に客のサービスに満點を示して近代カフェーの濃厚な氣分を遺憾なく發揮してゐる。



カ
フ
エ
ー
カ
ド
追
手
通

カ
フ
エ
ー
ハ
ー
ト
鶴
島
町
中
通

キ
ヤ
バ
レ
ー
一
平
朝
日
町

附 録

津島郷の盟主

水郷岩松町

北宇和郡の南端、南宇和郡と境する地方の七ヶ町村を津島郷と云ふ。即ち岩松、清満、御楨、高近、畑地、北灘、下灘を總稱した名であつて、海に臨んだ北灘、高近、岩松、下灘と、山に抱かれた御楨、清満、畑地とに成る津島郷は確かに北宇和郡の一勢力である。此の七ヶ町村が團結して事に當つたならば或る程度まで北宇和郡を動かす得るのである。その津島郷の都ともいふべき岩松町はまた實に津島郷の盟主である。

岩松町は宇和島市へ約四里、南宇和郡御莊町へ約九里東南北の三方に山を負ひ、その中央にさゝやかな平野を抱き西方の一端が海に面してゐる。戸數六百、人口四千を有し、字拜高、三島、上本町、下本町、港町、濱通り、旭町、土居奥、芳原、米津に分れ、上本町、下本町、港町、濱通り、旭町は商店街で町の大部分を占め、その他は農家である。

岩松町の商店街は上白妙と下白砂の山麓にあり、街路から山を仰ぐと山の形は空への觸手の如く聳へ立つてゐる。街の裏通りは南豫八景の隨一と云はれる岩松川の清流に望み、春の遊び、夏の納

涼、秋の眺め、冬の雪など四季を通じて大自然の景勝をほしきまゝに満喫することが出来る。

岩松川の清流

岩松町の中心を流れる岩松川は、かつて南豫時事新聞で、南豫八景を募集した時、當選した南豫に於ける唯一の代表河川で、本流は源を御旗御内に發し、その間「鍋」の溪谷美、「馬の淵」の深淵、「八幡河原」の奇觀、「渦白水泳場」の清流等目まぐるしい迄に變化する風景美を残して流程約三里、岩松平野に入り、岩松川の美はいよゝ本格的に發揮されてゐる。

天然の良港

岩松港は岩松町をへだたる約半里のところであり山に包まれた天然の良港である、むかしは千石船と稱する帆前船が岩松川を上つて、青田の彼方に白帆が浮ぶの俚諺を残して、港町邊まで入つて來たのであるが、今は土砂の爲に川口が埋つて大船の出入が出来ず、たゞ僅に小型船の満潮時を利用して、出入するに過ぎない。町民はこれを遺憾とし、町當局も港灣計畫を立案であるから、近く具體案も出來、岩松港の面目を一新するであらう。

岩松町の沿革

戰國時代、西園寺十五將の一人越智越前守通孝、安藝守通繁、三郎通顯と繼いで、岩松郷、岩藤郷、清光郷、來村郷の内に知行して高一万石を領し、世に之れを津島殿と呼んだ。通孝は初め高近村高田の釋迦か森に居城したが、後岩松の天ヶ森に移り、代々の居城とした。土佐物語りに天正八年津島城主津宗島雲土州を攻めて勝たず、退いて居城を守つた。土州の將廣田伊賀守、宗圓と親厚あり、謀を以て城に入り宗圓を斬つて歸る、宗雲遂に勝算なきを以て自刃したとある。

津島組古城拔書に、天ヶ森城主河野安藝守越智朝臣通顯本城津島殿と號す、天正八歲辰十月二十七日逝去す、三寶寺殿前藝州大守秀山覺雲大居士廟所高田邑新殿南森に有、數世廟、從者墳有云々。宇和舊記に、前藝州大守月秀覺雲居士、天正八年戊辰十月二十七日、但し安藝守通繁、後又宗雲とも申し、此の人戒名歟とある。一説に土佐物語りの宗雲は越智通顯の事であらうと云はれて居り、いろゝ説を異にしてゐるが、高近村の三寶寺（今の金龍寺）にある墓は越智通顯のものと言はれてゐる。通顯の子通續その後を繼いだが、多病の爲め、鶴ヶ森城主曾根豊後守通武之に代つて支配した。天正十二年長曾我部の軍大舉して天ヶ森を攻め、石丸、山口、曾根、岩藤、西、松浦、國松

山中氏等防戦よく努めたが衆寡敵せず、遂に落城して一族自刎した、一説に通續等數名は逃れて長濱に至り此の地に病歿したと傳へられてゐる。

元和元年伊達氏の領となつてからは、宇和島藩制によつて、侍代官を置き岩松外六ヶ村を統べてゐた。其後明治となり、村制が施かれ、一時高近村と合併したが、すぐ分村し、大正九年町制を實施して今日に及んだのである。

現在岩松町役場吏員は町長秋月春莊、助役山口文雄、收入役（缺員）書記船田稔、栗本藤松、濱本幸太郎、公益質屋主任上田武雄の諸氏である。

岩松町の現況

津島郷の盟主である岩松町には豫州銀行岩松支店、伊豫鐵電散宿所、岩松蠶業株式會社、南豫乾繭組合支庫、製糸工場、魚市場等があり、官公署としては警部補派出所、郵便局、登記所、土木駐在所、木炭検査所等がある。

戸數六百三戸の内、商業二百五十九戸、農業百四十三戸、工業九十三戸、水産業二戸、其他百五戸であるが、岩松の商工業は他の半農半商の地に見る如き道樂的のものでなく、純粹の商業地

であつて場合によれば宇和島の商業家と戦つて見やうと云ふ位に活氣がある、附近の山村、即ち津島郷七ヶ町村の産物を岩松の商人で消化せんとするの意氣を以てゐるが故に、岩松は商工業地として其繁榮を保持し得てゐるのである。

岩松商工會役員は會長 小野唯三郎、副會長 長瀧重次郎、評議員 河野源藏、安井新惠、河野清馬、山口義孝、上田一馬、西崎積三郎、淺野直幸、山本愛、兵頭菊藏の諸氏である。

岩松の重要物産

昭和九年度の調査による岩松町の重要物産は左の通り

農産物	五万九千圓	林産物	十九万七千圓	工産物	二十三万七千圓	水産物	八千圓
畜産物	八千圓						

此の内清酒十五万圓、木炭十三万九千圓、生糸十万七千圓、醬油九万圓、繭二万七千圓、米二万一千圓、木製品一万二千圓、

各種團體

商工會々員百十名、農會二百十九名、在郷軍人分會百二名、青年團八十名、處女會五十五名、消防組百三十名、主婦會百十五名、日本赤十字社百三十八名、愛國婦人會七十八名、帝國軍人後援會十五名、海員救濟會二十二名、畜産組合四十九名、養蠶實行組合九十八名、漁業組合五名

神社、佛閣

三島神社 祭神大山祇命、磐長姫命、木花開耶姫命を祀る。同社は吉井大明神と稱し、津島郷の總鎮守で津島殿代々の産土神であつた。文安五年十一月十三日越智武俊再興、延徳四年十一月十二日越智駿河守俊盛及び高田宮壽丸再興天文十八年九月六日越智越前守通孝、美作守通良新に社地を卜して遷宮し、伊達氏入國後代官眞柳主馬助徳長報興の棟札がある。

金龍山臨江寺 古くは池隠山林光寺と云ひ又隣江院とも稱し、天ヶ森の中腹にあつた、今に寺屋敷名が残されてゐる。開山は宇和島の龍華山の五世關龍宗機大和尚で、開基は詳でない、本尊は藥師如來である。宇和舊記には本尊阿彌陀とある、宗機和尚は中興の開山であらう、大成郡祿の元祿年間津島郷岩松村の高直しの記事には等覺寺末、玉龍山林光寺とある。

<p>小西莊三郎</p> <p>岩松町</p>	<p>小西例一</p> <p>岩松町</p>
<p>西村扇藏</p> <p>岩松町</p>	<p>宇和島二等郵便局長團</p>
<p>株式會社 豫洲銀行 岩松支店</p>	<p>吳服商 上田富士松商店</p> <p>宇和島市横新町 電話一五八番</p>

産婦人科 物部醫院

宇和島市中之町

御用は

獨得の技術を有する弊所へ……御下命下さい

特許家具黑板
運動具製作

山口木工所

宇和島市本町(電四四四)

袋町濱通

渡邊藥局

電話五六一番

各國産漆器

松浦源四郎商店

追手通

運動具の

書籍と雑誌
全運動具
高級文具



杉山昭文堂本店

宇和島市追手通

支店

電話二四三番
宇和島市堀端通

通信販賣、外交販賣

宇和島市追手通

正札の店 ② 天満屋呉服店

出張所

電話八〇一番
吉田町本店
電話八番

宇和島市銀行團

宇和島市外並松

高級
清酒

暖雪ダンセツ

醸造元

河野酒店

電話二三四番

内科
外科
神經科

宇和島市鶴島町中通

松澤醫院

電話一〇九番

伊豫鐵道電氣株式會社
宇和島支店



ウエタ醬油發賣元

宇和島市横新町(本町筋角)

全上田商事株式會社

電話二三番 六一九番
振替口座大阪二一七七六番
受電署語ウエダイトミセ

電氣の御用は安い!! 早い!!

品は一番

電話は二番

田中電機百貨店

宇和島市船大工町

毛糸、わた、綿糸商

スキー毛糸特約店



井上糸店

宇和島市惠美須町
電話八二八番
振替德島三八六〇番

宇和島市本町二丁目



夕竹葉糸店

電話四〇〇番

香川縣三豊郡箕浦



夕製綿所

電話略(〇夕)

綿糸、わた、綿糸、
布糸、糸、
卸商
綿糸、わた、綿糸、
生袋服

足學わ毛綿綿

宇和島市袋町濱通

久米川藥局

藥劑師 久米川覺太郎
電話 八七番

鶴島町西通

愛媛證券株式會社

稻垣富三郎
電話 五五番

宇和島市橫新町

吳服太物
卸商

細井吳服店

電話 三五番

宇和島市朝日町一丁目

公債株式
賣買仲介

宇和島株式店

司馬春太郎
電話 四二五番

諸紙、文具
帳簿、書籍

谷本商店

宇和島市惠美須町
電話 五四一
振替下關八一三七番

宇和島市本町一丁目

玉井株式店

電話 九三九番

高溫殺菌牛乳

合資會社

井上牧場

宇和島市伊吹町

宇和島市本町五丁目

吳服卸 西村吳服本店

電話四五二番

宇和島市丸之内

秋田木材合資會社

電話三七二番

宇和島市鶴島町

内外商 瀬崎由太郎

電話一三五番

宇和島市丸之内

宇和島材木會社

電話六番
電略(ウサ)

宇和島市榮町

第二號日乃本丸

日乃本廻漕店

楠本鹿之助

電話二六八番

小間物 化粧品 宇和島市追手通

ダルマヤ商店

松本計馬

電話七四一番

宇和島市湊町

内外材木各種 長古島長六商店

電話四〇八番

宇和島市袋町濱通

古書 賣買 フタバ屋書店

菊美ど里

釀造元

宇和島市船大工町

菊池酒造店

電話一九九番

宇和島市外高串

清浮世美人
酒 宇和鶴

赤松酒造場

電話二五〇番

猿の居る

豊岡洋服店

宇和島市鶴島町
電話六七三番

明治製糖株式会社
明治製菓株式会社

愛媛縣特約販賣店

三渡邊甚藏

宇和島市追手通
電話(ヤマ)三十三番
電話三十三番

宇和島市和靈町

丸今綿布株式會社
宇和島支店

電話三四〇番

優良蠶種製造

合資會社 豐 豫 館

宇和島市外來村宮下
電話三六〇番

西島產婦人科醫院

電話五二九番

鈴木式マブシ整形器

製造發賣元

大穉村商店 アキムラ 出張所
蠶具部

宇和島市鶴島町中通

S . Y

事務用文房具
和洋帳簿
和洋紙
雜誌

宇和島市エビス町

矢野本店

電話三一六番

婦人服・小供服・專門店

コドモヤ洋服店

宇和島市堀端通
電話五一〇番

宇和島市本町一丁目

繭糸 層物 商 矢野德一郎

電話八一七番
電略(ヤ)

各國行貨物取扱

宇和島市港町
菊池合名廻漕店

電話七四四番
電略(キ)又ハ(キク)

字和島市榮町二五六番地第二

合名 南豫地方
會社

鹽元賣捌所

電話七二二三番

純良牛乳

槇野牧場

字和島市天神町
電話一一三番

字和島市惠美須町

吉 酒井食料品店

電話一二六番

字和島市大浦

銘酒 發展 釀造元
土居酒造部

土居 晃

字和島市山際

石丸牧場

電話八四一番

字和島市堀端通

産、婦人科

神尾醫院

神尾 耀
電話九五八番

入院
隨注意

字和島市船大工町

内科 小兒科
稻田醫院

稻田 豐作

電話八一一番

生地其他附屬品

小供服 婦人服
ハリウッド洋裝店

字和島市追手通

電話(呼出)一一九番

宇和島市丸穂

太陽館蠶種製造所

宇和島市船大工町

吳服卸商 河野直商店

電話九二〇番

宇和島市横新町内港

株式會社 宇和島共同組

電話 一五三番
七二九番

宇和島市佐伯町

三好製糸場

電話 一三三番
三三七番

宇和島市鶴島町

日野齒科醫院

院長 日野 晋

宇和島市鶴島町

內科 外科 太田醫院

院長 太田喜真太

明 朗 な

サービスを誇る

皆様の社交場

カフェートキワ

清 楚 な

ノーチップ制度

新 築 華 麗

□ 袋町の 食堂部

□

□

丸之内新開地

カフェートキワ

電話 6 2 5 番

一般薬品
和漢薬草 卸 小賣
染料工業品

宇和島市恵美須町

松村支店事

ミヤギ薬局

京都薬學士 宮城洋一

電話一七四番

白蟻征伐の至寶

特許白蟻殺滅法

宣傳よりも事實

理論よりも實効

施行後絶対保證

特許白蟻殺滅豫防所

宇和市榮町

森村茂太郎

印 章 篆 刻
松 本 印 房

宇和島市袋町二
電話七五八番

高級大小型
貸切専門

是非御愛乘願ヒマス



朝日タクシー

宇和島市横新町
電話六〇四番

宇和島橋原間定期荷物運送

豫土自動車商會

書籍雜誌、國定教科書
中等學校教科書、高級文具

キング堂書店

宇和島市袋町濱通
電話九四四番

花鯉節、鯛ノ華製造元
海産物問屋



三榮社

山本商店

宇和島市内港
電話(特長)二〇六番

天幕防水
雨具製造

三共テント商會

惠美須町
電話四〇五番

米雜穀
和洋酒
醬油
木炭
株式會社
森本商店

宇和島市御殿町本通

電話八四八番
電略(モリ)

鶴島町東通

ミドリ薬局

薬剤師二宮福源

鶴島町中通

遠藤薬局本店

電話 一七三番
一七八番
大阪四二〇二一
徳島二二二一〇
振替

伊豫醸造株式會社

きつと御氣に召す

御婦人服 専門店
御小供服

皆様のミヤコ洋装店

市内追手通

鶴島町東通

林齒科醫院

林 信雄
電話七六八番

宇和島市袋町濱通

御料理 榮月

榮月食堂

宇和島市大浦

清家酒造場

松本松太郎

宇和島市元結掛

直武幸三郎商店

電話五〇四番

宇和島市横新町

谷藥局

電話三〇〇番

和靈町東通

土居材木店

電話七六五番

書道用品と文具

文泉堂

袋町濱通

宇和島市驛前

合名 黒田商店

電話三二八番

文具卸商

谷本商店

惠美須町
電話五四二番

宇和島市和靈町

(キリン館前)

須賀川食堂

酒井千代松

昭和十年十一月卅日印刷
昭和十年十二月五日發行

定價八十錢

編輯兼發行人 淺井伯源
愛媛縣松山市魚町二丁目十三番地

印刷人 仲野秀一
愛媛縣松山市木屋町五丁目五三番地

印刷所 仲野印刷所
愛媛縣松山市木屋町五丁目十八番地

發行所 愛媛縣松山市魚町二丁目十三番地
愛媛郷土研究會

355
1120

人口七十万、戸数十二万

生産一年額七千萬圓を有す

南豫の燈明台

明治三十五年 創立 壹萬弍千近し



本社南豫時事新報社

宇和島市丸之内一番地

電話四四・一〇六・二二二番

東京支局 芝区汐留町 電話三〇・一二番
大阪支局 北区蕨蔵町 電話三四六六番

地方支局 (電話無設備略)

- 喜多郡大洲町 (電話三八) 尾崎繁年
- 八幡濱市 (電話六) 二宮堅守
- 西宇和郡川之石 (電話六) 兵頭正保
- 西宇和郡三瓶町 (電話九) 朝井新一
- 東宇和郡卯之町 (電話三六) 中村 勇
- 東宇和郡野村町 (電話四) 高田初太郎
- 北宇和郡吉田町 (電話二〇) 岩城政吉
- 北宇和郡吉田町 (電話八) 三井彦次
- 北宇和郡三間村 (電話四八) 大高秋太郎
- 北宇和郡泉村 (電話三三) 水野滿三郎
- 北宇和郡明治村 (電話八) 正木正光
- 北宇和郡吉野生 (電話三三) 松江治太郎
- 北宇和郡岩松町 (電話二〇) 河野清馬
- 南宇和郡平城町 (電話二四) 竹場鹿乃
- 南宇和郡城邊町 (電話三六) 菊池浦吉
- 幡多郡宿毛町 (電話五五) 丸山峰一

終